

次期学園長に橋本匠司氏を選任

湘南学園理事会

住田現学園長の任期が、2026年3月末日をもって終了することから、理事会では次期学園長（2026年度から2027年度）の選任を進めてまいりました。

11月22日開催の定例理事会において、次期学園長に橋本匠司氏を選任いたしましたのでご報告いたします。

選任にあたり、学園長候補者を学内教員及び学外の教育に造詣の深い方から同時に求めましたが、一名の候補者の推薦を規定数の学内教員の方からいただきました。

理事会の場では学園長候補者より今後の方針や抱負等のプレゼンテーションをいただきとともに、質疑応答により候補者の考えを理解した上で橋本匠司氏の選任を決定いたしました。

湘南学園は、これからの来るべき100周年に向け、橋本学園長を中心に様々な課題を乗り越え、建学の精神と培われた伝統を堅持しつつ、更なる発展を目指してまいります。

皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



湘南学園 学園長

就任にあたって

次期学園長 橋本匠司

1 自己紹介

国立山梨大学教育学部を卒業後、昭和58年横浜市小学校

教員として採用され、教員人生がスタートしました。教員

時代は、子ども一人ひとりの

良さを見出し、それぞれが主体的に学びに取り組める環境

づくりを目指しながら、日々

の教育活動に取り組みました。子どもの成長は生活のすべて

の場面で見られることから、そこに寄り添うことを大切にしなければと常に考えて

いました。また、教員の質を高めるのは、やはり授業に負

うことが大きいと捉え、様々な教科の授業研究に取り組み、区や市に向けての研究発表も行いました。特に体育科

では校内の体育主任、区の小

学校体育研究会部長、市の

ボール運動研究部会部長として、組織として活動することにより大きな力が発揮できることを学びました。

平成23年3月11日、東日本

大震災が起こり、日本中が辛

く悲しい出来事に涙しました。その年、私は副校長になりましたが、同時にESDと

真摯に向き合うこととなりました。被災地には直接赴くことはできませんでしたが、安全や環境に関する多くの研修

会に足を運び、これからの教育はこのESDを基軸として

行われていくべきだと強く感じました。そして地域との関

わりを強く意識し、副校長として地域の方々との関係構築

に力を注いだことを覚えて

います。

校長となつてからもESDを学校運営の中心に据え、

日々の教育活動の中で教職員

内のESD認知度を少しずつ

学園長就任以来、様々な場面で湘南学園の教育の素晴らしさを伝え、さらに発展させてこられた住田昌治学園長の後任として次期学園長に選任されました橋本匠司と申します。

建学の精神である「個性豊かにして身体健全 気品高く 社会の進歩に貢献できる 明朗有意な実力のあ

る人間の育成」を常に大切に

にし、PとTの共同経営という素晴らしい体制を尊重しながら、これまで長年に渡り培われてきた学園経営のノウハウを生かし、創立100周年に向けて湘南学園がさらに発展していけるよう、微力ながら誠意努力させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



高めていきました。3年目には横浜市に向けESD授業研究発表会を実施いたしました。その中で、やはり日々の学校運営そのものの中でESDの学びに継続して取り組み、学校力の向上を図ることが必要であるとの考えに至りました。

そんな中、かねてより希望していた文部科学省在外教育派遣教員に合格し、平成29年インド共和国ムンバイ日本人学校校長として赴任することとなりました。その後令和5年にもカタルド国ドーハ日本人学校校長としても赴任いたしました。インド3年間カタルド2年間の在外教育施設としての大きな転機になりました。日本国内とは異なる環境の中、学校運営において重要になったことは、いかに正しい情報を取得するかということでした。さらにそれを生かした教育活動を実現するためには、児童・生徒・教職員を含め学校に関わる方々を巻き込みながら皆で知恵を出し合っていくことが必要でした。持続可能な学校を運営し

ていくこと、それそのものがESDに繋がる活動であることを実感した5年間でした。日本に帰国後は大学や国際理解教育研究会での講演等を通して、学生や教員に向け、海外から見た日本について、自己の見聞からお話をさせていただいています。

2 私の目指す教育

幼小中高が同じ敷地内にある総合学園であり、他に類を見ない建学の精神に基づいた教育実践が為され、PとTの共同によって運営されてきた湘南学園は、そこに関わる全ての方々の思いと願いが込められた日々の営みを積み重ねてきた素晴らしい学園であると強く思っています。そこにさらにESDの精神が取り込まれ、ユネスコスクールとしての教育活動が実践されているこの学園には、今必要とされている教育の形がすでに具現化されているのではないのでしょうか。しかしながら従前とは異なり、日々進化していく現代社会の中で、教育現場においても様々な課題が生ま

れ、よりの確にそしてスピーディに対応していく必要も生まれています。

これまで培われてきた湘南学園の教育の良さを再発見するとともに、ESDの基盤である「ケア」の精神を核とした、湘南学園ならではの教育を継続、構築していくことが私の目指す教育であります。

子どもたちにとって『学び続けることの楽しさを自然に感じ取れることのできる環境』『人との関わりの中で喜びを感じる環境』を共に創り上げていきたいと考えています。そして学園についての話が出た時、「湘南学園で、こんな学校なんだよ！」と皆が笑顔で話ができるような、温かく、心地の良い、姿の見える学園を目指してまいりたいと思っています。

3 私の考える学校運営

日本国内の公立学校に勤務していた頃より校長として学校運営の基軸としていたことは

- 教育課程
- 人事
- 財務

の3つであり、現在でもこの考えは変わっていません。この3つの柱をバランスよく運営することにより、学校全体の成長が見込まれていくと考えます。そのためには、学校の今置かれていく状況を正確に把握していく必要があります。現在も様々な方法によって情報取得の努力はされていますが、今後多く

の思いですが、今後多くの方々からの情報取得に努め、相互理解の上、透明性のある学校運営をしていきたいと考えています。理事会の皆様をはじめとしました多くの方々のお知恵をいただきながら、丁寧な学校運営に努めてまいりたいと思います。

4 湘南学園の持続可能な発展のために

創立100周年に向かう今、現状の正確な理解のもと、全学での相互理解と協力体制を常に見つめ、高めていく必要があると考えています。学園生のために関係者一同が対話を惜しまず、共同していくことが湘南学園の独自性であり、現在の学園の方向性として

様々な取り組みはこれからの学校のあるべき姿を現していると思えます。しかしながら不確実性の時代と言われる現代において、実際の活動や取り組みはよりブラッシュアップされ、効果的なものになっていくことが望まれます。今後も様々な場面において皆様とそれぞれの立場で配慮ある率直な意見交換や交流を進め、これまで培ってきた運営のノウハウを大切にしながらも、時代にあつた活動を実現し、持続可能な学校運営のための協力関係を深めることができればと願っております。明るく活気ある学園の風土は皆の宝であり、卓越した建学の精神のもとに、今後子どもたちの明るい未来を実現できると信じています。私自身、総合学園である本学において、学園関係者の連携を重視し、「湘南学園の教育」が具現化できるよう、日々の業務に取り組んでまいりたいと思えます。どうか、ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

